

岡本南公園を彩る桜たち

「桜守公園」の別名にふさわしく、ササベザクラ以外にも珍しい桜がたくさん。
園内に咲き誇る桜の中から、おすすめの桜をご紹介します！



ヤマザクラ(権現平の桜)

笹部氏が自著『櫻男行状』で「その花の佳さは私の知る限り群を抜いていたと思う」と絶賛し和歌山にあった実生苗から育てました。権現平桜は戦時中に伐採されましたが、平成になって西宮市がバイオテクノロジーによる増殖に成功、こちらは西宮権現平桜と呼ばれています。



エドヒガン(莊川桜)

笹部氏が73歳の時、岐阜県の御母衣(みぼろ)ダムの建設によって水没する運命だった樹齢450年のエドヒガン(莊川桜)の移植に成功。『櫻守』にも、ダム建設にともなう樹齢400年以上のエドヒガン2本の移植に成功したエピソードが登場します。



ヤエベニシダレ

十五代佐野藤右衛門氏から取り寄せたしだれ桜。佐野藤右衛門は代々仁和寺の造園を担ってきた庭師で、十四代からは桜守として知られています。十五代は『櫻守』に「京都広沢の池の宇多野は京の桜の母親」として登場する宇多野のモデルです。



オカモトザクラ

多くの品種を植えている場所では、交雑により新しい桜が生まれることがあるといいます。オカモトザクラは、元々笹部氏の庭に植えられていたオオヤマザクラとオオシマザクラの交雑の結果誕生したと考えられています。

甲南大生も「桜守公園」の美化に協力しています。

甲南大生が立ち上げ、代表を務めるボランティア団体であるNPO法人パラフル(palafool)は、さまざまな活動を行う中で、桜守公園の美化にも取り組んでいます。桜守公園の清掃活動を始めたのは、毎週清掃をする地域の方々からお話を頂いたのがきっかけです。清掃活動は学生同士の交流も図れるため、積極的に参加したいというメンバーの意見もあって開始しました。現在は桜守公園の桜たちが満開になる日を楽しみに、毎週月曜日に清掃活動に取り組んでいます。パラフルはほかにも児童保育のボランティアを主に行っており、甲南大学の周辺に住んでいる共働き世帯の子どもたちを預かり、一緒に遊んだり、勉強を教えたりする活動をしています。このようなさまざまな活動を通して、地域の活性化を図っています。



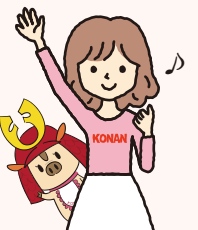
岡本ぶらり

第12回

私たちが紹介します

ナビゲーター/
もっとさん と なんぼーくん

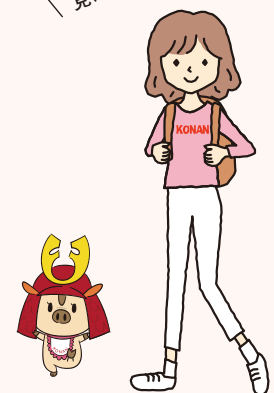
「岡本」のまちをもっともっと知りたい！
好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南
の公式キャラクター。



久しぶりのお花見は岡本で！

桜博士が愛したとっておきの桜を
見に行こう！

特別な桜を
見に行こう！



小説家 水上勉の名作『櫻守』
にも登場する「ササベザクラ」
誕生の物語

長引くコロナ禍で足が遠のいていたお花見。ウィズコロナの生活様式にも慣れ、「今年は数年ぶりにお花見に出かけてみよう」とお考えの方も多いことでしょう。久しぶりのお花見、せっかくなら特別な桜を見に行きませんか。
おすすめするのは桜博士と言われ、水上勉の小説『櫻守』のモデルともなった笹部新太郎氏の邸宅跡「岡本南公園」、通称「桜守公園」の桜たち。桜を研究し、日本固有種の保護育成に力を入れ、各地で桜の管理や指導を行った笹部氏の生涯に思いをはせながら、今も咲き続ける桜を鑑賞してみたいかがでしょうか。



地域の方々から愛される岡本南公園

1960(昭和35)年、植物学者・笹部新太郎氏はそれまで住んでいた大阪から岡本へ引っ越しました。ある日、庭に落ちた種子が発芽しているのを発見、それまで見たことがない新種の桜だと気づき、成長記録をつけるようになります。そうして成長した桜が「ササベザクラ」です。
1978(昭和53)年、笹部氏が亡くなる前にこの桜を「ササベザクラ」と名付けるよう、遺言を残したと言われています。鑑定の結果、正式に新種の桜と認められ、1985(昭和60)年、遺言通り「ササベザクラ」と名付けられました。
また、笹部氏から庭の桜を残してほしいと依頼された友人たちが神戸市に働きかけ、1981(昭和56)年、邸宅跡は岡本南公園として整備されました。平成に入ると南側の隣接地を合わせて拡張され、現在の敷地に、残念ながらササベザクラの原木は現存していませんが、取木苗から育成された後継樹が園内に植えられ、毎年美しい花を咲かせています。



阪急岡本駅から徒歩約3分、JR摂津本山駅から徒歩約7分、
甲南大学岡本キャンパスから徒歩約6分



淡紅色の半八重咲で
花弁が立つように咲く
ササベザクラ